

官報

號外

昭和二十年一月三十一日

○第八十六回衆議院議事速記録第六號

帝國議會

昭和二十年一月三十日(火曜日)

午後三時二十五分開議

議事日程 第五號

昭和二十年一月三十日

午後一時開議

第一 船員保險法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(岡田忠彦君) 諸般ノ報告ヲ致

サセマス

(書記官朗讀)

一、本日議員ヨリ提出セラレタル議案
左ノ如シ

船員諸士ニ對スル感謝決議案

提出者

藤生安太郎君	安藤 正純君
青木 精一君	綾部健太郎君
新井 堯爾君	井野 碩哉君
伊豆 富人君	一宮房治郎君
上田 孝吉君	植松 練磨君
小高長三郎君	越智太兵衛君
大藤 唯男君	太田 正孝君

加藤鏖五郎君	勝 正憲君
勝田 永吉君	金光 庸夫君
川崎末五郎君	川島正次郎君
清 寛君	清瀬 一郎君
窪井 義道君	小林 絹治君
小山邦太郎君	紅露 昭君
櫻井兵五郎君	四王天延孝君
眞藤慎太郎君	田邊 七六君
多田 滿長君	高木 義人君
高橋 守平君	津雲 國利君
津崎 尙武君	鶴見 祐輔君
手代木隆吉君	豐田 收君
中島彌團次君	中瀬 拙夫君
永野 護君	西方 利馬君
箸本 太吉君	肥田 琢司君
一松 定吉君	眞崎 勝次君
眞鍋 儀十君	松田竹千代君
松永 東君	松野 鶴平君
三好 英之君	宮澤 裕君
村松 久義君	八角 三郎君
山崎達之輔君	安藤 覺君
阿子島俊治君	赤城 宗徳君
伊藤 清君	伊藤 五郎君

池本甚四郎君	石坂 繁君
泉 國三郎君	今尾 登君
今成留之助君	今牧 嘉雄君
宇田 耕一君	卯尾田毅太郎君
江口 繁君	岡本傳之助君
沖 藏君	片山 一男君
金光 邦三君	川俣 清音君
木村寅太郎君	小泉 純也君
小坂 武雄君	佐藤 芳男君
齊藤 正身君	坂口平兵衛君
薩摩 雄次君	白川 久雄君
杉山元治郎君	角 猪之助君
田中 源君	田中 好君
田中 藤作君	田部 朋之君
田村 矜君	瀧澤 七郎君
竹内 俊吉君	頼母木眞六君
鶴 惣市君	中 助松君
中谷 武世君	仲井間宗一君
檜橋 渡君	成島 勇君
南雲 正朔君	西川 貞一君
野口 喜一君	野田 武夫君
野田 正昇君	信正 義雄君
濱地 文平君	濱野 清吾君

原口 純允君	古田喜三太君
正木 清君	松浦周太郎君
森田重次郎君	森谷 新一君
八木宗十郎君	山田 順策君
山中 義貞君	山本 桑吉君
吉田敬太郎君	東郷 實君
池田 秀雄君	牛塚虎太郎君
作田高太郎君	松村 謙三君
木村 正義君	木暮武太夫君

[左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノ爲玆ニ掲載ス]

一、政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

昭和二十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律案中修正

(以上二月二十六日提出)

一、議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

戰時森林資源造成法案

提出者

宇田 耕一君	南郷 武夫君
佐藤 芳男君	小野 秀一君
松田竹千代君	伊藤 五郎君
作田高太郎君	伊藤東一郎君
駒井 重次君	成島 勇君
豐田 收君	新井 堯爾君
下出 義雄君	小坂 武雄君
増田 義一君	林 信雄君
中村又七郎君	愛野時一郎君
加藤 弘造君	本多 市郎君
大塚村 直君	鈴木 忠吉君
一松 定吉君	金子彦太郎君
上田 孝吉君	船渡 佐輔君
田嶋榮次郎君	吉田 正君
永田 良吉君	長内 健榮君
仲井間宗一君	菅又 薫君
瀧澤 七郎君	植村 武一君
船田 中君	恒松於菟二君
楠美 省吾君	小浦 總平君
北村又左衛門君	高野孫左衛門君
森部 隆輔君	信正 義雄君
吉田敬太郎君	高島龜太郎君
村澤義二郎君	眞崎 勝次君
山本 芳治君	圖師 兼貳君
原 玉重君	渡邊善十郎君
山崎 常吉君	木領信治郎君
大石 齊治君	中越 義幸君
野口 喜一君	林 正男君

明治三十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

川口 壽君	岸井 壽郎君
長沼 權一君	宮崎 一君
安部 寛君	遠山 暉男君
高岡 大輔君	二田 是儀君
大石 大君	安孫子孝次君
田子 一民君	牧原源一郎君
齋藤 憲三君	奥野小四郎君
渡邊 泰邦君	今井 新浩君
吉川 亮夫君	稻葉 圭亮君
木下 信君	別所喜一郎君
由谷 義治君	伊藤 清君
木村 武雄君	毛山森太郎君
中原 謙司君	植松 練磨君
松本 忠雄君	紫安新九郎君
藤井伊右衛門君	杉山元治郎君
小山 亮君	池本甚四郎君
五十嵐吉藏君	廣野規矩太郎君
田中和一郎君	小林鐵太郎君
清水留三郎君	渡邊 健君
柳川宗左衛門君	吉田貞次郎君
前田 善治君	正木 清君
小笠原八十美君	東條 貞君
森口 淳三君	坂本 一角君
吉田 賢一君	木村寅太郎君
角 猪之助君	保利 茂君
樋口善左衛門君	田部 朋之君
山中 義貞君	星野靖之助君
齋藤 正身君	石坂 養平君

高城 憲夫君	松永 壽雄君
鈴木 重次君	堀内 一雄君
松延彌三郎君	原口 純允君
田中 藤作君	柏原 幸一君
桃原 茂太君	曾木 重貫君
(以上一月二十九日提出)	
遺失物取扱ニ關スル建議案	
提出者	
野口 喜一君	杉山元治郎君
楢橋 渡君	
(以上一月二十七日提出)	
米穀買入價格引上ニ關スル建議案	
提出者	
伊藤 清君	吉田 賢一君
中村庸一郎君	山中 義貞君
岸井 壽郎君	濱野 清吾君
田部 朋之君	河盛安之介君
今井 嘉幸君	山野 平一君
吉田敬太郎君	菅野和太郎君
粉食ニヨル食糧自給能勢確立ニ關スル建議案	
提出者	
吉田 賢一君	伊藤 清君
愛野時一郎君	岸井 壽郎君
中村庸一郎君	河盛安之介君
石坂 繁君	稻葉 圭亮君
菅野和太郎君	山中 義貞君
菅又 薫君	今井 嘉幸君

山野 平一君	田部 朋之君
森川 仙太君	吉田敬太郎君
濱野 清吾君	
(以上一月二十八日提出)	
一、去二十八日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ	
(臨第一號)臨時軍事費豫算追加案	
(追第二號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件	
一、去二十七日小磯内閣總理大臣ヨリ左ノ通令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ	
特命全權公使 鈴木 九萬	
第八十六回帝國議會外務省所管事務政府委員被仰付	
軍需書記官 岡村 武	
第八十六回帝國議會軍需省所管事務政府委員仰付	
一、去二十七日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ	
第六部選出豫算委員 中谷 武世君	
一、去二十七日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ	
恩給法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員	
芦田 均君	牛塚虎太郎君
大石 大君	川崎巳之太郎君

金子 定一君	河盛安之介君
木下 信君	河野 一郎君
宗前 清君	田島榮次郎君
高岡 大輔君	高野孫左衛門君
林 信雄君	坂東幸太郎君
古田喜三太君	牧原源一郎君
三浦 虎雄君	山崎 常吉君
兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員	
伊藤東一郎君	伊吹元五郎君
猪野毛利榮君	植松 練磨君
大川 光三君	奥野小四郎君
金子彦太郎君	小坂 武雄君
小浦 總平君	小篠雄二郎君
四王天延孝君	信太儀右衛門君
南郷 武夫君	西村 茂生君
堀内 一雄君	宮崎 一君
森田 福市君	吉川吉郎兵衛君
戰時民事特別法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員	
伊藤 清君	井阪 豐光君
江口 繁君	金井 正夫君
清瀬 一郎君	菊地養之輔君
佐久間 渡君	田村 矜君
谷原 公君	仲西 三良君
南雲 正朔君	信正 義雄君
星島 二郎君	村澤義二郎君
桃原 茂太君	山田 竹治君

山本 芳治君	八並 武治君
農林中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員	
安藤 覺君	赤城 宗徳君
愛野時一郎君	馬岡 次郎君
小笠原八十美君	小高長三郎君
加藤 知正君	唐橋 重政君
木村寅太郎君	黒澤 西藏君
小山邦太郎君	齋藤 憲三君
高橋熊次郎君	土屋 源市君
恒松於菟二君	野村嘉久馬君
平野 力三君	松浦 伊平君
松原五百藏君	前川 正一君
村上 國吉君	森川 仙太君
森部 隆輔君	山口左右平君
山口馬城次君	山田 六郎君
吉田 賢一君	
産業設備營團法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員	
赤松 寅七君	今尾 登君
上田 孝吉君	川口 壽君
金光 邦三君	紅露 昭君
櫻井兵五郎君	薩摩 雄次君
下出 義雄君	庄司 一郎君
田中 貢君	田中和一郎君
田邊 七六君	高橋壽太郎君
瀧澤 七郎君	遠山 暉男君
長井 源君	長沼 權一君

伊吹元五郎君

西尾 末廣君 林 正男君
 福田 重清君 松永 東君
 松永 壽雄君 松尾 三藏君
 正木 清君 八木宗十郎君
 吉田敬太郎君

一、去二十八日常任委員補選選舉ノ結果左ノ如シ
 第六部選出
 豫算委員 菅野和太郎君 (中谷武世君補闕)

一、昨二十九日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
 船員保險法中改正法律案(政府提出)委員
 辭任角 猪之助君補闕米田 吉盛君
 産業設備營團法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 外一件委員
 辭任高橋壽太郎君補闕小林鐵太郎君

一、昨二十九日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
 恩給法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員
 委員長 古田喜三太君
 理事 高野孫左衛門君 宗前 清君

兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員
 委員長 森田 福市君
 理事 伊藤東一郎君 小坂 武雄君
 小浦 總平君
 農林中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員
 委員長 高橋熊次郎君
 理事 赤城 宗徳君 愛野時一郎君
 小笠原八十美君 恒松於菟二君
 森部 隆輔君
 戰時民事特別法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員
 委員長 金井 正夫君
 理事 伊藤 清君 南雲 正朔君
 信正 義雄君
 産業設備營團法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員
 委員長 松永 東君
 理事 金光 邦三君 薩摩 雄次君
 庄司 一郎君 長井 源君
 松尾 三藏君

○議長(岡田忠彦君) 是ヨリ會議ヲ開

キマス、日程第一、船員保險法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス――委員長村松久君

第一 船員保險法中改正法律案(政府提出)
 第一讀會ノ續(委員長報告)
 報告書
 一 船員保險法中改正法律案(政府提出)
 出
 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
 昭和二十年一月二十九日
 委員長 村松 久君
 衆議院議長岡田忠彦君

○村松久君 只今議題トナリマシタ
 船員保險法中改正法律案ノ特別委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス
 委員會ハ、前後四日間ニ互リ慎重審議ヲ重ネマシタ、提案ノ趣旨ニ付キ厚生大臣ヨリ、法案ノ内容ニ付キ政府委員ヨリ、ソレトモ説明ヲ聽キマシテ、質疑應答ヲ進メタノデアリマス、本案ノ内容ニ關シマシテハ報告ヲ省略スルコトト致シ、先ツ質疑ニ現ハレマシタル各委員共通ノ御發言ヲ申上ゲマシタルニ、現下深刻苛烈ナル海上輸送戰ニ於テ、凡ユル危険ヲ冒シ、苦難ヲ克服シ、只管ニ任務遂行ニ挺身敢闘スル船員諸君ノ勞苦ニ對シマシテハ、衷心ヨリ感謝ノ念禁ジ得ザルモノアリ、特ニ其ノ間輸送船ノ華ト散リ、命ヲ君國ニ捧ゲラレマシタル幾多殉職ノ英靈ニ對シマシテハ、厚ク敬弔ノ意ヲ表セラレタノデアリマス、更ニ各委員ハ、戰局打開ノ神機ハ、船員諸君ノ奮闘ニ期待スベキモノ極メテ大ナルモノアルニ鑑ミ、之ニ應ヘ且ツ後顧ノ憂ヒナク、任務遂行ニ挺身出來マスルヤウニ、援護優遇ノ徹底強化ヲ圖ルベキコトヲ要望セラレマシテ、政府ハ一層各般ノ施策ヲ急速果敢ニ斷行シテ、是ガ萬全ヲ期セラレタキ旨、懇誠溢ル、意見ノ開陳ガアツタノデアリマス

次ニ本案ニ關シマシタル質疑應答ノ主ナルモノヲ申上ゲマシレバ、大別シテ二ツニ分ケルコトガ出來マス、其ノ一ツハ案ノ内容ニ關スルモノデアリ、其ノ二ハ本案ニ關聯スル諸問題デアリマス、先ツ案ノ内容ニ關スルモノトシテ、第一ニ現在陸軍共濟組合ニ加入シツ、ア

リマス船員ニ付テハ、之ヲ船員保險ノ被保險者トシテ、一元的ニ其ノ援護ヲ圖ルコトト致シテハドウカトノ質疑ニ對シマシテ、政府ハ此ノ點ニ付テハ陸軍當局トモ連絡ノ上、御趣旨ノ線ニ沿ウテ研究ヲ進メタク、尙ホ今回ノ船員保險法ノ改正ト睨ミ合セマシテ、陸軍共濟組合ニ加入セル船員ガ、船員保險ノ被保險者ヨリ其ノ處遇ガ低下スルコトノナイヤウニ、陸軍當局ト打合せヲシテ、陸軍共濟組合ノ給付内容ヲ整備擴充シテ、船員援護上厚薄ノナイヤウニ致シタイ旨ノ答辯ガアツタノデアリマス、次ニ本月二十五日カラ實施セラレマシタ船舶待遇職員令ニ依リマシテ、待遇官吏トナリマシタ船員ニ付テモ、本法ノ適用ガアルカドウカトノ質疑ニ對シマシテ、待遇官吏タル船員ニ對シテモ本法ノ適用ガアツテ、兩々相俟ツテ船員優遇ノ實ヲ擧ゲントスルトノ答辯ガアツタノデアリマス、更ニ現行社會保險ヲ單一ナル社會保險ニ統合スル問題、本案ノ戰時特別ニ依リマシタル時加算ノ遡及ニ關スル問題、本案保險ノ資金ヲ福利施設ニ積極的ニ充用スベシトノ問題、其ノ他種々重要ナル質疑ガ行ハレマシタガ、是ガ詳細ナ報告ハ速記録ニ割愛致シタイト存ジマス、尙

トト致シ、先ツ質疑ニ現ハレマシタル各委員共通ノ御發言ヲ申上ゲマシタルニ、現下深刻苛烈ナル海上輸送戰ニ於テ、凡ユル危険ヲ冒シ、苦難ヲ克服シ、只管ニ任務遂行ニ挺身敢闘スル船員諸君ノ勞苦ニ對シマシテハ、衷心ヨリ感謝ノ念禁ジ得ザルモノアリ、特ニ其ノ間輸送船ノ華ト散リ、命ヲ君國ニ捧ゲラレマシタル幾多殉職ノ英靈ニ對シマシテハ、厚ク敬弔ノ意ヲ表セラレタノデアリマス、更ニ各委員ハ、戰局打開ノ神機ハ、船員諸君ノ奮闘ニ期待スベキモノ極メテ大ナルモノアルニ鑑ミ、之ニ應ヘ且ツ後顧ノ憂ヒナク、任務遂行ニ挺身出來マスルヤウニ、援護優遇ノ徹底強化ヲ圖ルベキコトヲ要望セラレマシテ、政府ハ一層各般ノ施策ヲ急速果敢ニ斷行シテ、是ガ萬全ヲ期セラレタキ旨、懇誠溢ル、意見ノ開陳ガアツタノデアリマス

次ニ本案ニ關シマシタル質疑應答ノ主ナルモノヲ申上ゲマシレバ、大別シテ二ツニ分ケルコトガ出來マス、其ノ一ツハ案ノ内容ニ關スルモノデアリ、其ノ二ハ本案ニ關聯スル諸問題デアリマス、先ツ案ノ内容ニ關スルモノトシテ、第一ニ現在陸軍共濟組合ニ加入シツ、ア

リマス船員ニ付テハ、之ヲ船員保險ノ被保險者トシテ、一元的ニ其ノ援護ヲ圖ルコトト致シテハドウカトノ質疑ニ對シマシテ、政府ハ此ノ點ニ付テハ陸軍當局トモ連絡ノ上、御趣旨ノ線ニ沿ウテ研究ヲ進メタク、尙ホ今回ノ船員保險法ノ改正ト睨ミ合セマシテ、陸軍共濟組合ニ加入セル船員ガ、船員保險ノ被保險者ヨリ其ノ處遇ガ低下スルコトノナイヤウニ、陸軍當局ト打合せヲシテ、陸軍共濟組合ノ給付内容ヲ整備擴充シテ、船員援護上厚薄ノナイヤウニ致シタイ旨ノ答辯ガアツタノデアリマス、次ニ本月二十五日カラ實施セラレマシタ船舶待遇職員令ニ依リマシテ、待遇官吏トナリマシタ船員ニ付テモ、本法ノ適用ガアルカドウカトノ質疑ニ對シマシテ、待遇官吏タル船員ニ對シテモ本法ノ適用ガアツテ、兩々相俟ツテ船員優遇ノ實ヲ擧ゲントスルトノ答辯ガアツタノデアリマス、更ニ現行社會保險ヲ單一ナル社會保險ニ統合スル問題、本案ノ戰時特別ニ依リマシタル時加算ノ遡及ニ關スル問題、本案保險ノ資金ヲ福利施設ニ積極的ニ充用スベシトノ問題、其ノ他種々重要ナル質疑ガ行ハレマシタガ、是ガ詳細ナ報告ハ速記録ニ割愛致シタイト存ジマス、尙

ホ本法案實施ノ時期ニ關シマシテハ、本年四月一日實施出來得ルヤウ急速準備シツ、アリトノ點ガ明カニセラレマシタ、續イテ本案ニ關聯シタ質疑ト致シマシテハ、第一ハ近ク實施ヲ見ントスル國民勤勞勳員令ヲ中心トシテ詳細熱心ナル論議ガ重ネラレタノデアリマス、勤勞行政一元化、勤勞者ニ對スル國家的處遇對策、女子徵用、女子挺身隊及ビ勤勞報國隊ニ對スル援護對策等ノ論議ノ詳細ニ付キマシテハ、是亦速記録ニ讓リマスガ、女子徵用ノ年齢ハ、女子挺身隊ガ二十五歳ヲ限度トスルニ鑑ミマシテ、同様二十五歳ト致シタキ旨ノ答辯ガアリマシタ、第二ハ船員優遇ノ問題デアリマスガ、船員ヲ待遇官吏ニ任用スル措置ニ出ゾルト云フコトモ、勿論船員優遇ノ一具現デアリマスルシ、又近ク給與ヲ大幅ニ引上ゲヨウト云フコトヲ考ヘテ居ルト云フコトモ、是亦優遇ノ途ト云フノデアリマスルガ、更ニ進ンデ徵用セラレタル船員ニ對シ、兵役法ヲ適用シテ現役海軍軍人トシテ取扱フコトニ大體ノ方針ガ決定シテ、目下其ノ事務の檢討ヲ行ツテ居ル旨ノ答辯ガアツタノデアリマス、尙ホ此ノ船員優遇ニ關聯致シマシテ、船員ノ奮闘ノ模様ヤ辛苦ノ實情ガ國民ニ徹底シ

テ居ラヌ憾ミガアルカラシシテ、是等ノ情報蒐集、報道宣傳ヲ更ニ徹底スルノ措置ヲ要望スルノ御意見、又船員ノ遺族援護ノ重要性ニ鑑ミマシテ、遺族ノ育英制度ニ付キマシテモ要望ガアリマシテ、船員優遇對策ニ示唆スル所多ナルモノガアツタノデアリマス、其ノ他厚生、運通各省萬般ニ互ル重要ナル質疑ガ行ハレマシタガ、詳細ハ速記録ニテ御承知願ヒタイノデアリマス、斯クテ委員會ハ昨日討論ニ入りマシテ、仲井閣宗一君ヨリ贊成ノ意見ガアリ、採決ノ結果全會一致原案ヲ可決致シマシタ、此ノ段御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(岡田忠彦君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○小泉純也君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

船員保險法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○小泉純也君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際藤生安太郎君外百二十三名提出、船員諸士ニ對スル感謝決議案ヲ議題トナシ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ

船員諸士ニ對スル感謝決議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨辨明ヲ許シマス

提出者藤生安太郎君

船員諸士ニ對スル感謝決議案(藤生安太郎君外百二十三名提出)

船員諸士ニ對スル感謝決議案

船員諸士ニ對スル感謝決議案

大東亞戰爭勃發以來、御稜威ノ下皇軍善謀勇戰能ク曠古ノ大戦果ヲ收メタル亦以テ船員諸士ノ烈々タル獻身報國ノ赤誠ニ負フモノ多シ諸士或ハ皇軍ニ隨伴シ凄絶ナル砲煙彈雨ニ身ヲ曝シ百戰ヲ冒シテ決死奮闘以テ海軍洋輸送ノ大任ヲ完ウシ或ハ敵襲ヲ制壓シテ廣袤數萬里ニ互ル兵站ノ補給物資ノ輸送ニ挺身シ以テ前線後方ヲ直結シテ戦力増強ニ寄與スル所極メテ大ナリ全國民學ケテ瞻仰感謝セサルナシ

今ヤ戰局危急ヲ告クルニ當リ皇威隆替ヲ決スルモノ懸リテ海上補給ノ完璧ニ在リト謂フヘク國民齊シク船員諸士ノ熱烈ナル闘魂ト敢闘トニ期待スルコト今日ヨリ急ナルハナシ庶幾クハ諸士益々憤激激越起護國ノ誠忠ヲ盡サレムコトヲ

衆議院ハ特ニ院議ヲ以テ船員諸士ノ偉功ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スルト共ニ今後益々自愛健闘ヲ祈リ併せて其ノ間命ヲ君國ニ致サレタル戰歿殉職ノ英靈ニ對シ誠懇ナル敬弔ノ忱ヲ捧ク

右決議ス

〔藤生安太郎君登壇〕

○藤生安太郎君 私ハ只今議題ニナリ

マシタ船員諸士ニ對スル感謝決議案ニ付テ、其ノ提案理由ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス

今ヤ戰局ハ愈々激烈日ヲ逐ウテ急調、刻々其ノ緊迫ノ度ヲ増シテ參リマシテ、眞ニ生方死カ、最後ノ關頭ニ立ツニ至ツタノデアリマス、私ハ心ヲ潜メテ今日ノ戰局ニ思ヒテ致シマス場合、諸君ト共ニ深刻ニ反省シナケレバナラヌ必要ヲ痛感致スノデアリマス、我々ハ大戰勃發ノ當初ニ於キマシテ、畏クモ宣戰ノ大詔ニ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリト、恐ラク前例ヲ拜シタコトノナイヤウナ御言葉ヲ以テ、此ノ大東亞戰爭ノ性格ガ如何ニ容易ナラザルモノデアルカ、實ニ祖國日本ノ存立ヲ賭スルモノデアルトシテ、又國民モ非常ナル所ノ覺悟ト決心トヲ以テ、飽マデモ戦ヒ拔キ、勝ち抜カケレバナラヌトノ嚴肅ナル御諭シヲ賜ハツテ居ルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ開戦第四年目ニ於ケル今回ノ開院式ニ於キマシテ、「戰局愈々危急トノ」御勸語ヲ賜ハツタノデアリマス、私ハ此ノ「戰局愈々危急トノ」御勸語ヲ下シ賜ハツタ陛下ノ御軫念ノ程ヲ拜察シ奉ル時、又斯クノ如キ御勸語ヲ賜ハラナケレバナラナイヤウナ今日ノ事態ニ立至ラシ

メ我々ノ責任ヲ考ヘル場合ニ、唯々
恐懼身ノ置キ所ヲサヘ知ラナイ思ヒガ
致スノデアリマス、政府及ビ軍當局ノ
責任ノ容易ナラザルハ勿論、我々議員
モ、更ニ又一億國民モ、共々ニ此ノ重
大ナル責任ニ對シマシテハ、心魂ニ微
シテ反省シナケレバナラナイノデアリ
マス(拍手)今こそ我々ハ一切ノ私ヲ擲
ツテ、サウシテ奉公ノ誠ヲ竭シテ、皇
國護持ノ大任ヲ果シ、以テ大御心ヲ安
ンジ奉ラナケレバナラナイノデアリマ
ス、然ルニ戰局危急ナル今日ニ於テ、
若夫レ、尙且ツ自分ノ地位ヤ名譽ヤ財
産等ニ汲々タルモノアリトスレバ、正
ニ是ハ天人俱ニ許サザル所デアリマス、
言フマデモナク我々ノ地位、名譽、財
産ハ日本國家アツテノモノデアアル、日
本國家亡ビテ何ノ地位ダ、何ノ名譽ダ、
日本國家ガ敗レテ何ノ財産ダ、今こそ
我々一億國民ハ一人殘ラズ此ノ覺悟ヲ
新タニシテ、サウシテ日本國家ノ生命
ヲ護持シ奉ラナケレバナラナイノデア
リマス

シテモ感謝ヲシ切レナイノデアリマ
スガ、併シナガラ御承知ノ如ク今次ノ
大戦ノ戰場ハ、皆遠ク海ノ彼方ニアル
ノデアリマシテ、隨テ戰ハ常ニ大海洋
作戦デアリマシテ、戰勝ノ鍵ハ一ニ懸
ツテ海上ノ補給如何ニアルト申シテモ
決シテ過言デハナイノデアリマス、如
何ニ我ガ皇軍ガ精強無比デアルト申シ
マシテモ、海上ノ補給戰線ニ働ク所ノ
船員ノ活躍ナクシテハ、陸上制覇モ亦
赫々タル戦果モ、到底之ヲ望ムコトハ
出来ナイノデアリマス、又如何ニ統後
生産陣ノ努力ニ依ツテ、武器彈藥等ノ
戦力ガ増強致サレタト致シマシテモ、
船員諸君ノ敢闘ニ依ツテ之ヲ前線ニ直
結スルニアラザレバ戦力トハナラナイ
ノデアリマス、又如何ニ造船國策ノ下、
造船戦士ノ敢闘ニ依ツテ優秀ナル船ガ
續々出來タト致シマシテモ、船員諸君
ノ働キナクシテハ何ノ用モナサイノデ
アリマス、然ルニ斯クノ如キ重大ナル
輸送任務ノ下ニ、而モ飽クマデモ縁ノ
下ノ力持トナツテ、黙々トシテ決死敢
闘ヲ續ケテ參リマシタル所ノ船員諸士
ニ對シマシテハ、唯僅カニ先般ノ議會
ニ於キマシテ、軍人以外ノ從軍者ニ對
スル感謝決議トシテ包括ノ感謝セラ
レテ、一括ノ取扱ハレタニ過ギナカ

ツタノデアリマス、併シナガラ今茲ニ
船員諸士ニ對スル感謝決議案トシテ上
程セラレルニ至リマシタコトハ私ノ至
極本懐トスル所デアリマス
今ヤ敵ハ物量ヲ恃ンデ我ガ補給ノ大
動脈ヲ斷チ切ラントシテ、或ハ飛行機
ヲ雲霞ノ如ク繰出シ、或ハ又機動部隊
ヲ我ガ要衝周邊ニ遊弋セシメ、或ハ又
無數ノ潜水艦ヲ隨所ニ配置シテ、我ガ
行動ヲ妨害セント致シテ居ルノデアリ
マス、然ルニ我ガ船員諸君ハ此ノ敵陣
ノ中ニ愈々奮闘ヲ振ヒ起シテ、凛烈酷
寒ノ北海ニ、將又酷烈驚瀾ノ南海ニ、而
モ身ニ寸鐵ヲ帶ビルコトナク、或ハ
砲煙彈雨ノ中、或ハ機雷網ノ真只中ニ飛
込ンデ、敵機、敵潛ノ雷撃ヲ物トモセ
ズ、能ク其ノ持場々々死守シテ敢闘
致シテ居ルノデアリマシテ、其ノ任務
ノ重大ナル、其ノ氣魄ノ雄渾ナル、我
ガ皇軍將兵ト少シモ異ナル所ハナイノ
デアリマス、見ヨ敵彈ノ爲ニ火ヲ吐ク
コトヲ「罐」抱イテ、サウシテ海ニ投ジ
テ其ノ船ヲ救ツタ壯烈ナル船員ヲ、又
沈ミ行ク船橋ニ、聖壽ノ萬歳ヲ奉唱シ
テ其ノ船ト運命ヲ共ニシタ所ノ從容自
若タル船長ヲ、更ニ又敵彈ノ爲ニ兩手
頭ヲ奪ハレ、而モ頸動脈ニ深キ痛手ヲ
負ヒナガラモ、尙且ツ皇軍ノ揚陸ヲ指

揮セル不屈剛魂ノ航海士、更ニ烈帶海
域ノ百四十度ニ上ル船底ニ、機關室ニ、
煤炭作業ニ奮迅スル所ノ年少氣銳ノ船
員達ヲ、更ニ又皇國ノ危機ニ憤然蹶起
シテ、サウシテ最後ノ御奉公ナリトシ
テ再び海上ニ乗出シタ所ノ八十二歳ノ
老機關長、或ハ七十六歳ノ老船長ノ此
ノ意氣、斯クノ如キ壯烈純忠ノ敢闘美
談ハ數フルニ違ナイノデアリマシテ、其
ノ働キト其ノ勳トハ斷ジテ將兵ニ遜色
アルモノデアリマセヌ、正ニ現下ノ
船員コソハ名實共ニ我ガ國家ノ戰闘員
デアリ、第一線ノ作戰部隊デアルト云
フベキデアリマス、斯クシテ黙々トシ
テ七生報國ヲ誓ヒ、莞爾トシテ護國ノ
神ト化セラレタ所ノ幾多無名ノ船員
ハ、其ノ數ニ於テ海軍ノ將兵ニ劣ラナ
イトノコトデアリマス
畏クモ 天皇陛下ニ於カセラレマシ
テハ、内閣顧問タリシ故山下龜三郎氏
ヨリ、海運界ノ事情ヲ聞シ召サセ給ウ
タ際ニ、特ニ船員及ビ其ノ遺家族ニ對
シテ 大御心ヲ垂レサセ給ウテ、種々
御下問遊バサレタ由ニ承ツタノデアリ
マスガ、御仁慈ノ程洵ニ畏キ極ミデア
リマス、政府亦斯カル船員ノ敢闘アレ
バこそ、勳功アルモノニ對シテハ、金
鵞勳章ノ拜受ヤ、靖國神社合祀ノ光榮

ニ浴セシメ、又最近船員待遇官吏令ヲ
制定スルナド精神的ニ物質的ニ、種々
船員ニ對スル所ノ感謝表彰ノ方策ヲ講
ゼラレツ、アリマスコトハ、私ノ大イ
ニ意ヲ強ウスル所デアリマス、併シナ
ガラ私ハ若シ一般國民ガ、政府ノ此ノ
船員ニ對スル所ノ處遇ト相呼應シテ、
船員ニ對シテモ彼ノ出征軍人ニ對スル
ガ如ク、アノ感激ノ日ノ丸ノ旗ノ波ト
萬歳ノ歡呼トヲ以テ、或ハ驛頭ニ、或
ハ埠頭ニ感謝感激ノ場面ヲ展開スルナ
ラバ、更ニ又船員ノ遺家族ニ對シテモ、
出征軍人ノ遺家族ニ對スルト同様ニ、
或ハ厚生ニ、或ハ援護ニ温カキ其ノ手
ヲ差伸ベルナラバ、船員ノ喜ビ船員ノ
満足ハドウデアリマセウカ、又船員モ
之ニ應ヘムトスル爲ニ士氣ハ愈々昂揚セ
ラル、モノデアルト信ジテ疑ハナイノ
デアリマス、船員ニシテ靖國神社ニ合
祀セラレルモノハアリマスケレドモ、
其ノ數ハ極メテ僅少デアリマス、之ニ
鑑ミマシテ、私ハ若シ茲ニ此ノ靖國神
社ニ合祀セラレザル所ノ幾多無名ノ船
員ノ爲ニ、或ハ海勳神社ト云フヤウナ
モノガ國民ノ名ニ於テ創建セラレテ、
國民ノ感謝尊崇ノ殿堂タラシメタナラ
バ、皇國船員ヲシテ愈々感奮興起セシメ、
益々、殉國ノ熱意ヲ湧カシムルモノト信

ズルノデアリマス

尙ホ私ガ茲ニ特ニ聲ヲ大ニシテ船員諸君ニ感謝ノ意ヲ表シナケレバナラナイコトハ、彼ノ長崎丸、菅船長ニ依ツテ示サレタル所ノ日本帝國ノ船員道ガ、我が國民ノ決戦下ニ於ケル所ノ道義生活ニ、如何ニ偉大ナル所ノ教訓ヲ與ヘテ呉レタカト云フコトデアリマス、御悉知ノ如ク菅船長ハ、味方ノ機雷ニ觸レテ、其ノ船ヲ失ツタ、其ノ時ニ其ノ責任ヲ非常ニ痛感致シマシテ、サウシテ遺族ニ對シテホ前達ノ爲ニ生キテヤリタイノハ山々デアルケレドモ、ソレデハ日本帝國ノ船員道ガ相立タヌト云ツテ、遺書ヲ遺シテ妻子ニ對スル綿々タル所ノ愛情ヲ斷テ切ツテ、毅然トシテ而モ武人モ難シトスル所ノ從容タル態度作法ヲ以テ割腹自決サレタノデアリマス、當時我々國民ハ此ノ菅船長ノ嚴肅ニシテ悲壯ナル所ノ心事ニ對シテハ肅然トシテ襟ヲ正シタノデアリマス、此ノ菅船長ノ態度ガ如何ニ全國船員ノ士氣ヲ鼓舞激勵シタカ、正ニ皇國船員ノ龜鑑トシテ、千古ニ讚仰シナケレバナラナイノハ勿論、又此ノ菅船長ノ烈々タル道義性ガ、今日動モスレバ頽廢セントスル所ノ各界ノ指導者層ノ道義感ニ對シテ、如何ニ深刻偉大ナル教訓ヲ

與ヘタカト云フコトヲ思フ場合ニ、私ハ日本道義昂揚ノ爲ニ、衷心感謝感激

任感ニ徹シ、職ニ殉ズルハ我が日本古來ノ醇風美俗デアリマス、而シテ今ヤ此ノ醇風美俗ガ失ハレントシテ居ル、徒ラニ責任ヲ説キ、責任ヲ論ズル者ハ多イケレドモ、君國ノ大事ヲ憂ヘテ身ヲ以テ責任ヲ斷行セントスルモノハ、是レ極メテ稀デアアルノデアリマス、百弊ノ仍テ生ズル所以モ茲ニアルト云ハナケレバナリマセヌ、我が船員諸君皆此ノ菅船長ガ一死以テ示シタル所ノ船員道ヲ己レノ信條トシテ、常ニ偉大ナル戰果ノ蔭ニ唯默々トシテ、敢テ名ヲ求ムルニアラズ、敢テ功ヲ欲スルニアラズ、只管悠久ノ大義ニ生キンガ爲ニ、奮戰敢闘致シテ居ルノデアリマシテ、此ノ姿コソハ實ニ道義ノ國、日本ニ相應シキ洵ニ頼モシク力強キ姿デアルト申サナケレバナリマセヌ

御祈リヲ致スコトハ肇國以來ノ我が國風デアル、歷朝亦明津津トシテ尊キ御

身ヲ以テ御示シ給フ所デアリマス、彼ノ神風特別攻撃隊ガ徒ラニ神風ヲ頼ムコトナク、自ら身ヲ以テ神風ヲ捲起サント致シタルガ如キ、又宮本武藏ハ「神佛ハ尊シ、神佛ヲ頼マズ」と言ツテ居リマス、更ニ頼山陽先生ハ蒙古來ノ詩ノ末節ニ於テ「恨ム可シ東風一颯シテ大瀧ニ附シ、羶血ヲシテ盡ク日本刀ニ膏ヲ使メザリシヲ」と言ツテ、當時ノ武士ガ荷クモ我が皇土神州皇土ヲ汚ス外狄醜夷ニ對シマシテハ、日頃鍛ヘタ所ノ此ノ日本刀ニ依ツテ斬ツテノ、斬捲ツテ、ソシテ磨キ上ゲタル此ノ日本刀ヲシテ、敵兵ノ血ヲ眞赤ニ染メテヤラウト期待シテ居ツタノニ、風ガ吹イテ敵船ガ沈没シテ、敵兵ガ溺死シテシマツタト云ツテ、其ノ神風ニ對シテ「恨ム可シ」と嘆ズタルガ如キ、其ノ烈々タル鬪魂氣魄ヲ以テ私共ハ神ニ祈ル代リニ、神様ヨ、見テ居テ下サイ、此ノ戰爭ハ今日不利デアラウトモ必ず我々ノ血ト汗ノ眞劍ヲ擲キテ以テ、此ノ肉ト骨ヲ粉ニシテ、必ず勝ツテ御覽ニ入レマスカラ見テ下サイ、弓矢八幡御照覽アレト云フ此ノ心持、此ノ神ニ御誓ヒ申上ゲ、ソシテ神ニ御照覽ヲ願フ所ノ誠

ヲ以テ、國民一人殘ラズガ日常各自ノ

仕事ニ精魂ヲ盡シテ奮闘致シタナラバ、戰勝必ズ我ニアルコトヲ固ク信ジテ疑ハナイノデアリマス、又斯クスルコトガ船員諸士ノ勞苦ト犠牲トニ對シテ感謝スル最良ノ途ナリト信ジテ疑ハナイノデアリマス、船員諸君、我々ハ此ノ神ニ誓フ所ノ心、神ニ御照覽ヲ願フ所ノ誠ヲ以テ、諸君ノ勞苦ト犠牲トニ對シテ感謝シ、ソレト同時ニ戰歿殉職ノ英靈ニ對シテ深甚ナル敬弔ノ忱ヲ致シ、傷疾疾病ノ船員諸君ニ對シテ厚ク同情ノ誠ヲ致サントスル者デアリマス、是ヨリ私ハ決議文ヲ朗讀致シマス

國隆替ヲ決スルモノ懸リテ海上補給

ノ完壁ニ在リト謂フベク國民齊シク船員諸士ノ熱烈ナル鬪魂ト敢闘トニ期待スルコト今日ヨリ急ナルハナシ庶幾クハ諸士益々憤激敢闘護國ノ誠忠ヲ盡サレムコトヲ

衆議院ハ特ニ院議ヲ以テ船員諸士ノ

偉功ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スルト共ニ今後益々自愛健闘ヲ祈リ併セテ其ノ間命ヲ君國ニ致サレタル戰歿殉職ノ英靈ニ對シ誠懇ナル敬弔ノ忱ヲ捧ク

右決議ス

何卒滿場一致御贊成ヲ賜ハラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(岡田忠彦君) 採決致シマス、

本案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○議長(岡田忠彦君) 起立議員、仍テ

本案ハ全會一致可決致シマシタ

○議長(岡田忠彦君) 此ノ際運輸通信

政務次官ヨリ發言ヲ求めラレテ居リマス

○政府委員(前田房之助君) 大臣病氣

ノ爲メ私ヨリ代ツテ御挨拶申上ゲマス、

戰ニ挺身スル船員諸士ニ對シ熱誠溢ル、感謝ノ御決議ヲ賜ハリ、又戰歿並ニ殉職セル船員諸士ノ英靈ニ對シ敬弔ノ誠悃ヲ忝ウシ洵ニ感謝感激ニ堪ヘマセヌ、御決議ノ次第八直チニ之ヲ全船員諸士ニ傳達致シマスト共ニ、謹ンデ殉職船員諸士ノ英靈ニ奉告スルコトト致シマス

戰局ハ愈々苛烈トナリ、皇國陸軍ノ岐ル、秋、之ヲ打開スルモノハ皇軍將兵ノ善謀力戰ト相俟チテ、海上補給及ビ重要輸送ノ完遂以外ニハアリマセヌ、船員諸士ハ御懸篤ナル院議ニ依リ更ニ感激ヲ新タニシ、一層自奮奮起シ、心魂ヲ盡シテ輸送戰ニ敢闘シ、必ズヤ御期待ニ副フコトト信ジマス(拍手) 茲ニ船員ニ代リ衷心ヨリ謝意ヲ表シマス(拍手)

○小泉純也君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出所得稅法外十六法律中改正法律案出 所得稅法外十六法律中改正法律案 地方稅法及地方分與稅法中改正法律案ノ兩案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタリ 所得稅外十六法律中改正法律案、地方稅法及地方分與稅法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長勝正憲君

所得稅法外十六法律中改正法律案 (政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

地方稅及地方分與稅法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一所得稅法外十六法律中改正法律案 (政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 勝 正憲

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一地方稅法及地方分與稅法中改正法律案 (政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 勝 正憲

衆議院議長岡田忠彦殿

〔勝正憲君登壇〕

○勝正憲君 只今議題トナリマシタ所得稅法外十六法律中改正法律案外一件ニ付キマシテ、委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

委員會ハ一月二十三日成立致シマシテ、翌二十四日ヨリ審議ヲ開始シ、爾來三十日マデ會ヲ重ヌルコト六回ニ互

リ、委員諸君カラ熱心ナル質疑ガアリ、之ニ對シマシテ政府當局ヨリ詳細ナル説明ガアリマシテ、慎重審議ヲ重ネタル次第デアリマス、本委員會ニ付託セラレマシタ法案ノ中、所謂増稅法案ノ骨子ハ、當面スル此ノ重大戰局ニ對處シ、臨時軍事費其ノ他諸經費ノ財源ニ充ツル爲メノ國庫收入ノ増加ヲ圖ルト共ニ、最近ニ於ケル通貨金融等ノ諸情勢等ニ顧ミ、財政支出ニ伴フ國民ノ購買力ヲ吸收スル爲メ、所得稅、酒稅等ノ六稅ニ付キ簡素且ツ重點的ニ增稅ヲ行ヒ、併セテ戰時下緊要トスル租稅ノ減免ヲ行ヒ、又官民相互ノ手數ヲ省略スル等ノ爲メ、必要ナル稅制ノ改正ヲ行ハントスルモノデアリマス、又地

方稅法及地方分與稅法中改正法律案ハ、地方財政ノ現況ニ鑑ミ、且ツ地方分與稅制度ノ經過年度終了ニ伴ヒ、地方財源ヲ擴充スルト共ニ、配付稅ノ分與方法ヲ適切ナラシムル爲メ必要ナル改正ヲ行ハントスルモノデアリマシテ、其ノ内容ノ詳細ハ本月二十二日、本議場ニ於テ關係各大臣ヨリ説明ノアリタル通りデアリマス、委員會ニ於キマシテハ更ニ政府ヨリ各案ノ内容ニ付キ詳細ナル説明ガアリマシテ、引續キ質疑ニ入ツタノデアリマス、其ノ主要ナルモノヲ茲ニ御報告申上ゲマス

先ツ增稅案ニ關スルモノト致シマシテハ、第一ハ增稅ノ根本問題ニ關スルモノデアリマス、即チ戰局ニ照ラシ、財政支出ハ益々増大スルコトト思ハレルガ、公債收入ト租稅收入トノ割合ハ、如何ナル程度ニ於テ財政計畫上適當ト認メラレルカ、又今回ノ增稅ハ昭和二十年年度ノ歳出全體ト睨ミ合セテ、十分ノ收入ヲ見込シテアルカドウカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテハ政府ヨリ、戰時財政ニ於ケル財源ハ出來ルダケ多額ヲ租稅ニ依リコトガ望マシ、併シ何程ガ租稅ニ依ルベキデアルカト云フ限度ハナイノデアツテ、或ハ公債ニ依リ、或ハ租稅ニ依リ、其ノ時々ノ

見透シ、情勢ノ變化等ニ依リマシテ逐次決定セラルベキデアルガ、出來ルダケ租稅ニ依リタイト思フ、隨テ今回ノ增稅ハ臨時軍事費等歳出全體ガ相當多額トナルベキ豫想ノ下ニ、專賣益金ノ増收、富藏發行ニ依リ收入等ト共ニ、一貫セル方針ノ下ニ適當ト認ムル増收ヲ圖ツタノデアルトノ答辯ガアツタノデアリマス、第二ハ、今回ノ增稅ノ目的ハ國庫收入ノ増加ト國民購買力ノ吸收、此ノ二本建トナツテ居ルガ、徹底的ナ稅制改革ノ途ニ出デズ、單ナル稅率ノ引上ニ止マル限り、國庫收入ノ増加ハ或ハ達シ得テモ、國民購買力吸收ノ目的ハ達シ得ナイト思ハル、ガドウデアルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテハ政府ヨリ、「インフレーション」防止ハ各方面ノ視野カラ研究ヲ要スル問題デアルガ、增稅ハ今日ノ「インフレーション」防止ノ重要ナル一要素デアアル、財政支出ノ増嵩ニ伴ヒ、公債ガ増發セラレ、資金ガ市場ニ撒布セラレル際ニ於テハ、國民購買力ノ吸收ハ增稅ニ依ラナケレバナラナイ、今回ノ增稅ハ適切ニ國民購買力ノ吸收ニ資シ得ルモノト考ヘ、其ノ見地ニ立脚シテ立案シテ居ルト云フ答辯ガアツタノデアリマス、第三ハ、將來ニ互リ益々膨脹シ

ツ、アル戰時財政ヲ現行稅制デ賄ヘルカドウカ、稅制上幾多考慮ヲ要スルモノガアルト思ハレルガ果シテドウデアルカ、又將來増稅スルニ際シテハ直接稅中心デ行クカ、間接稅中心デ行クカト云フヤウナ、今後ノ増稅乃至稅制改正方針ニ關スル質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテハ政府ヨリ戰時財政ノ必要ニ對應スベク今日ノ稅制ハ最モ能ク出來テ居ルト思ハレルカラ、現行稅制ヲ改革スルト云フ考ヘハナイ、今後増稅ニ當リ問題トナルノハ分類所得稅ト賣上稅デアルト思フガ、分類所得稅ニ付テハ今後尙ホ相當工夫ヲ凝ラス必要ガアルト思ツテ居ル、賣上稅ハ物品稅ノ形デ一應既ニヤツテ居ルノデアアルガ、之ヲ一般賣上稅ニ移行セシムベキヤ否ヤニ付キマシテハ、重要ナル問題ヲ包藏シテ居ルノデ大イニ檢討ヲ要スル、尙ホ其ノ際ハ綜合所得稅、相續稅等ノ問題モ忽セニスベカラザル所デアアル、又財產稅ニ付テハ所得稅ノ補完稅トシテナラバ分類所得稅ガ之ニ優ツテ居リ、非常財產稅トシテ戰時中ノ行フコトハ不適當デアアルカラ、財產ニ對スル課稅ハ相續稅以外ニハ考ヘテ居ナイ、尙ホ將來ノ増稅ノ重點ハ直接稅ニ置クベキデアツテ、間接稅ハ稅率ヲ増

シテモ増收ヲ期待スルコトハ困難デアルト云フ答辯ガアツタノデアリマス、第四ハ、現行稅制ハ頗ル複雑多岐デアアル、之ヲ徹底的ニ簡素化シテハドウデアアルカト云フ質問ガアリマシテ、之ニ對シマシテハ政府ヨリ、稅制ヲ出來得ル限り簡素化スルト云フ趣旨ニハ至極贊成デアツテ、今回モ現下各般ノ情勢ニ鑑ミ、必要ト認ムル簡素化ヲ行フコトト致シタ次第デアアル、但シ租稅ハ飽クマデモ負擔ノ平衡ヲ得ルコトヲ使命トシテ居ルノデ、簡素化ノ程度ニモ自ラ限度ガアルト考ヘテ居ルト云フ意味ノ答辯ガアツタノデアリマス、第五ハ、所謂新興所得階層ニ對スル課稅ノ問題デアリマス、時局ニ因リ所得ノ特ニ增加セルモノニ對シテハ其ノ購買力ヲ效果のニ吸收スル爲ニ、稅制ノ面ニ於テモ格段ノ措置ヲ必要トスルノデハナイカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテハ政府ヨリ、所謂新興所得階層ト考ヘラレルモノモ現行稅法ニ依ツテ課稅出來ルノデアツテ、此ノ問題ハ稅法改正ノ問題デモナク、稅制改正ノ問題デモナク、一ニ稅務運用ノ行政ノ面ニ於ケル問題デアアル、即チ現行ノ稅法ノ下ニ於テヤルコトノ出來ル問題デアアル、自由勞務者ニ對シマシテハ昨年ノ増稅

ノ際、丙種ノ事業所得トシテ分類所得稅ヲ源泉課稅スルコトト致シタ次第デアアルガ、現在相當ノ成績ヲ收メテ居ル、又本年ハ是等ノ自由勞務者以外ノ者ニ付テモ、所得ノ實體ヲ的確ニ捕捉スベク稅務運用ノ面ニ於テ格段ノ工夫ヲ凝ラシ、徵稅内部ノ機構ヲ整備シテ、專ラ是等調査ノ徹底ニ當ル部課ヲ設クルト共ニ、關係官廳、業者組合、勞報、產報等トモ緊密ナル連絡ヲ圖リ、各地域のニ適當ト認メラレルモノヲ囑託シテ、各方面ヨリ資料ヲ集メ稅務ノ經常的調査ヲ出來ルダケ簡捷化シテ、是等ノ新興所得階層ノ調査ニ主力ヲ注グコトトシテ、負擔ノ公正ヲ圖ル爲メ格別ノ努力ヲ致ス考ヘデアルト云フ答辯ガアリマシタ、其ノ他今回ノ分類所得稅ノ増稅ハ、一律ニ稅率ヲ引上ゲテ大衆課稅ニ陥ツテ居ルガ、寧ろ是ハ應能課稅ノ原則ヨリスレバ、累進課稅ニ依ル所ノ綜合所得稅ニ統合スルカ、少クトモ綜合所得稅ヲ増稅スベキデハナイカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ政府ヨリ、分類所得稅ハ直接稅ノ根幹デアツテ、戰時ニ於テ所得稅ヲ多額ニ徵收スルニハ分類所得稅ガ最モヨク其ノ效果ヲ發揮スルノデ、今回ノ増稅モ分類所得稅ニ主眼ヲ置イタ次第デア

アル、綜合所得稅ハ納稅者數ト稅收額トニ自ラ限度ガアツテ、伸ビ難イ缺點ガアルカラ、所得稅ヲ綜合所得稅一本ニ統合スルコトハ適當デナイ、又現在綜合所得稅ノ負擔ハ相當ニ重クナツテ居ルノデ、今回ハ増稅ヲ見合ハセタノデアルト云フ答辯ガアリマシタ
次ニ地方稅法及地方分與稅法中改正法律案ニ關スルモノト致シマシテハ、第一ハ戰時下地方財政ノ膨脹甚ダシイ現狀ニ照ラシ、此ノ程度ノ改正デ完全ニ必要ナル地方財源ヲ充足シ得ルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ本改正案ニ依リ獨立財源及ビ配付財源ノ擴充ト配分ノ適正ヲ圖ルト共ニ、他方分與稅制ノ運用ニ依リ配付稅ヲ增額分與シ、又別ニ軍關係市町村ニ對スル財政特別補給金ノ設定等ニ依ル國庫財政ヨリノ援助ヲ併セ行フコトニ依リ、當面必要ナル財源ハ概ネ充足出來ルモノト認ムル旨ノ答辯ガアリマシタ、第二ハ、市町村民稅ノ引上ニ關シテ是ガ住民負擔ニ及ボス影響如何、殊ニ所謂新興所得階級ノ負擔増徴ノ方法ヲ考ヘテ居ルカト云フ意味ノ質問ガアリマシタ、之ニ對シテハ市町村民稅ノ引上ハ本稅創設ノ本質ニ鑑ミ、國民所得增加乃至市町村經費膨脹ノ狀況ニ照ラシテ、此ノ

程度ノ負擔ヲ適當ト認メタルモノデ、一人當リ最高賦課限度ヲ現行ノ儘ヲ据置イテ引上ゲナカツタノハ、國稅所得稅等ノ増徴トノ關係ヲ考慮シタルト、一面成ベク質問ノ如キ一般住民ノ負擔増徴ヲ自途トシタモノデ、賦課方法ニ付テハ此ノ趣旨ニ依リ指導スル方針デアアル旨ノ答辯ガアリマシタ、此ノ外極メテ重要ナル質問應答ガ多數行ハレタノデアリマスガ、其ノ詳細ハ速記録ニ依リテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、由來増稅ニ關スル法律案ガ提案セラレマシタ時ハ、其ノ稅ニ關係アル當業者其ノ他ガ委員等ニ對シマシテ色々反對ヲ唱ヘ、苦情ヲ申出デ、陳情ヲ致シ、是ガ委員會ニ反映致シテ、種々ナル反對の又ハ糾彈のナル質問トナルモノデアリマスガ、支那事變以來既ニ六十七億圓ノ増稅ヲ受ケ、今又更ニ十八億圓ノ増稅ヲ受ケントスル今回ノ委員會ニ於キマシテハ、是等ノ質問ガ只ノ一ツモナカツタノデアリマス、是レ國民ガ此ノ國家存亡ノ危局ニ直面シタル今日、苟クモ勝手拔ク爲ニハ如何ナル負擔ヲモ甘シテ之ヲ受ケ、苟クモ勝手拔ク爲ニハ如何ナル犠牲ヲモ斷ジテ之ヲ忍バントスル、強キ固キ決心ノ現ハレデアルト信ジマス(拍手)

斯夕致シマシテ本月二十四日ヨリ三十日マデ六日間、熱心審議ヲ行ヒマシテ、三十日ノ午後三時討論ニ入り、今成

リマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

歳入歳出豫算追加案、(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、(第二號)昭和二十年度歳入歳出總豫算追加案、(特第二號)昭和二十年度特別會計歳入歳出豫算追加案ノ十案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレシコトヲ望ミマス

シマス、豫算委員長ノ報告ヲ求メマス——豫算委員長太田正孝君

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和二十年一月三十日
委員長 太田 正孝
衆議院議長岡田忠彦殿

留之助君ガ翼賛政治會ヲ代表シテ贊成ノ意見ヲ述べ、採決ノ結果、各案トモ満場一致ヲ以テ原案通り可決致シマシタ、此ノ段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(岡田忠彦君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
○議長(岡田忠彦君) 委員ニ付託シタル議案ノ審査終了ヲ待ツ爲メ、暫時休憩セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和二十年一月三十日
委員長 太田 正孝
衆議院議長岡田忠彦殿

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○議長(岡田忠彦君) 御異議アリマセヌカ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、暫時休憩致シマス
午後四時二十四分休憩

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、昭和二十年度歳入歳出總豫算案並昭和二十年度特別會計歳入歳出總豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、(特第一號)特殊財産資金豫算追加案、(第一號)昭和十九年度歳入歳出總豫算追加案、(特第一號)昭和十九年度特別會計歳入歳出豫算追加案、(第二號)昭和二十年年度歳入歳出總豫算追加案、(特第一號)昭和二十年年度特別會計歳入歳出豫算追加案、(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、(第二號)昭和二十年度歳入歳出總豫算追加案、(特第一號)昭和二十年年度特別會計歳入歳出豫算追加案、(第一號)昭和二十年年度特別會計歳入歳出豫算追加案、右十案ヲ一括シテ議題ト致

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、昭和二十年度歳入歳出總豫算案並昭和二十年度特別會計歳入歳出總豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、(特第一號)特殊財産資金豫算追加案、(第一號)昭和十九年度歳入歳出總豫算追加案、(特第一號)昭和十九年度特別會計歳入歳出豫算追加案、(第二號)昭和二十年年度歳入歳出總豫算追加案、(特第一號)昭和二十年年度特別會計歳入歳出豫算追加案、(第一號)昭和二十年年度特別會計歳入歳出豫算追加案、(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、(第二號)昭和二十年度歳入歳出總豫算追加案、(特第一號)昭和二十年年度特別會計歳入歳出豫算追加案、(第一號)昭和二十年年度特別會計歳入歳出豫算追加案、右十案ヲ一括シテ議題ト致

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和二十年一月三十日
委員長 太田 正孝
衆議院議長岡田忠彦殿

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 太田 正孝

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一(特第一號)昭和十九年度特別會計

歳入歳出預算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 太田 正孝

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一(第一號)昭和二十年度歳入歳出總

豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 太田 正孝

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一(特第一號)昭和二十年年度特別會計

歳入歳出預算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 太田 正孝

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナ

ルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 太田 正孝

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一(第二號)昭和二十年度歳入歳出總

豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 太田 正孝

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一(特第一號)昭和二十年年度特別會計

歳入歳出預算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 太田 正孝

衆議院議長岡田忠彦殿

〔太田正孝君登壇〕

○太田正孝君 豫算委員會ハ只今議長

カラ報告ヲ求メラレタル豫算各案十件

ノ審議ヲ中心トシ、現下ノ苛烈ナル戰

局ニ照應シツ、財政、外交、軍需増産、

食糧確保ニ重點ヲ置ク國民生活、國內

體制等ノ問題ニ關シ質疑ヲ重ネ、討論

ヲナシ、豫算各案ノ滿場一致可決ヲ見

タノデアリマス、玆ニ問題別ニ質疑ノ

内容ト、討論者タル翼贊政治會ヲ代表

セル山本象吉君ノ贊成要旨トヲ一括シ

テ報告スルコトニ致シマス

第一ハ、豫算案ヲ中軸トスル財政、

物價「インフレ」問題デアリマス、一般

會計ト臨時軍事費ノ純計ハ、一千十八

億一千八百餘萬圓デアリマス、金額ト

シテ臨時軍事費ハ未曾有ノ巨額ヲ示シ

テ居リマスガ、諸々ノ特別會計ノ中核

トナルモノハ一般會計デアリ、其ノ額

ハ追加豫算ヲ加ヘテ二百六十九億三

千二百餘萬圓トナリマス、之ヲ特殊經

費ト、一般經費トニ分チマス、特殊

經費中注目スベキモノハ、國債費ガ四

十四億八千餘萬圓ニ達シマシタコトト

豫備金ガ二十二億圓ヲ計上シテ居ルコ

トトノ二點デアリマス、國債費ノ増加

ハ、財源ノ主力ヲ公債ニ求ムル必然ノ

結果デアリ、將來ニ重大ナル問題ヲ貽

スコトハ言フマデモアリマセズ、豫

備金ニ付キマシテハ、戰時財政ノ機動

性ヲ發揮スル意味ニ於テ、其ノ巨額ヲ

要スルコトモ亦當然ノコトト信ジマス、

併シ平時ニ於ケル一般會計豫算ノ總額

ニモ匹敵スル巨額ノ經費ヲ運営スルニ

當リマシテハ、必要ナル時期ニ適當ナ

ル金額ノ支出ヲ見ナケレバナリマセ

ズ、此ノ點ニ關シ從來政府運営ノ經過

ニモ顧ミ、委員側カラ審議會ヲ設クベ

シトノ提唱ガアリマシタ、即チ國家總

動員審議會ノ例ヲモ勘案シ、民間意思

ヲモ加ヘタル機構ヲ以テ其ノ適切ナル

運営ヲ圖ルベシト云フノデアリマス、

之ニ對シ政府ハ考慮ヲ約シ、委員會ノ

討論者ハ其ノ實現ヲ強ク主張シタ

ノデアリマス、此ノ特殊經費ニ對

シテ一般經費中注目ヲ惹クモノハ、

五十六億圓ニ上ル補助金デアリマス、

特ニ價格差ノ爲ニスルモノハ、二十七

億七千三百餘萬圓ニ上リ、政府ノ物價

政策ガ重要物資ニ付キ生産者價格ヲ國

庫補助ノ方式ヲ以テシ、之ヲ消費者價

格ニ及ボサシメナイト云フ二重價格政

策ヲ執ツテ居ル所以デアリマス、豫

算全體ガ何故ニ巨額ニ達シタカラ檢

討シマスルト、一ニモ二ニモ三ニモ物

價ノ高マツタ爲メデアルト斷ジ得ルノ

デアリマス、昭和二十年年度豫算ハ一言

ニシテ言ヘバ物價騰貴豫算デアリマス、

政府ハ切詰メテ豫算編成方針ヲ執ツタ

トハ言ヒナガラ、殆ド見ルベキ新規事

業ノナイ所以モ玆ニアリノデアリマ

ス、物價政策ニ付キマシテハ所謂「イ

ンフレ」問題ノ中心デアリ、戰時ノ生

産ニ、將又戰時ノ國民生活ニ影響スル

重大問題デアリマス、然ルニ政府ノ物

價對策ハ今日マデ確信アルモノヲモ

示シテ居ナイノデアリマス、唯生産者

側ノ懇ヘル儘ニ、軍需ニ食糧ニ補助金

ヲ増シテ居ルニ過ギナイ、中ニハ小運

送賃ノ値上ノ如キ各方面ニ波瀾ヲ捲起

シテ當初ノ決定案ヲ修正スルノ已ムベ

カラザルニ至ツタモノアラアルノデア

リマス、中央地方ヲ通ズル公定價格ハ

驚クベシ數十萬種ノ多キヲ算シ、而モ

行ハレザル公定價格トシテ醜態ヲ暴露

シ、玆ニ津々浦々ニ及ブ闇物價ノ出現

トナリ、忌ハシキ道徳ノ弊類スラ見テ

居ルノデアリマス、政府ハ今更實效ナ

キ低物價政策ヲ執ラナイデアラウガ、

而モ公定價格ヲ外セバ六年前ニ定メタ

九・一八價格を歸ルト云フガ如キハ何
デセウカ、此ノ點ニ關シ政府ハ議會再
開ノ間際ニナツテ、漸クニシテ設ケタ
戰時物價對策會議ヲ以テ之ヲ處理ス
ルト云フノデアリマスガ、如何ニモ緩
漫デアリマス、而モ之ヲ指導スベキ方
針ガ定マツテ居ルカニ付キマシテハ實
ニ寒心ニ堪ヘナイデアリマス、斯ク
テハ折角ノ審議會モ物價問題ノ姥捨山
ニナルコトヲ憂フルノデアリマス、刻
刻ニ増産ニ影響シ、刻々ニ我等國民生
活ニ影響スル問題ヲ又ゾロ遲疑逡巡シ
テ、其ノ解決ヲ怠ルガ如キコトアリマ
シテハ、一大事ト言ハネバナリマセズ、
此ノ點ニ關シ、委員側ハ適正ニシテ國
民ノ守ルベキ價格ノ一線ヲ引ケト云フ
ノデアリマス、特ニ軍需品ニ付キマシ
テハ、前渡金支拂問題等ヲモ勘案シ、
現在個別主義ニ依ル調停價格ヲ改メ
テ、單一基準價格ニ馴致スベシト主張
シタノデアリマス、討論者ハ「インフ
レ」問題ガ軍需「インフレ」ニアル觀點
ニ立チマシテ、之ヲ強調致シタノデア
リマス、又食糧品ノ價格ニ付キマシテ
モ、各種ノ補助金等ニ依リ、農民ハ米價
ノ何程ニナルヤヲ知ラザル實情デアリ、
報奨金制度ノ如キ、何等農民ノ生産意
欲ヲ昂メズ、而モ消費者ハ關値ヲ以テ

其ノ日ノ糊口ヲ凌グ者モ少クナイ
狀態デアリマス、仍テ此ノ際一刀兩斷、
一方ニ簡明ニシテ、限界生産費ヲ重要
ニ考資料トシテ生産意欲ヲ昂メシムル
如キ價格ニ改メ、他方ニ消費者モ公然
ニシテ適正ナル價格生活ニ落著カシメ
ネバナラヌコトガ主張サレタノデアリ
マス、賃金特ニ日傭ニ付キマシテハ、
其ノ組織化ト相俟ツテ適正賃金ヲ定
メ、之ヲ實行セヨト云フノデアリマ
ス、尙ホ政府ノ新施策中ノ地方協議會
制度ノ下ニ於ケル各地域ノ地方長官ノ
權限ニ移讓サレル物價ノ調整ニ付キマ
シテモ、中央トノ關聯ニ於テ散漫トナ
ルベキ點モ指摘サレ、中央地方ヲ通ズ
ル物價ノ合理化ヲ圖ルベシト云フノデ
アリマス、要スルニ物價問題ハ資金面
ト物資面ト、更ニ思想面ニ互ツテ委員
會ノ重大案件デアツタノデアリマス、
財政支出ニ付キマシテハ此ノ以外ニ大
キイ問題ハアリマセヌ又、唯一ツ金額
ヨリモ本質ニ於テ問題トナリマシタノ
ハ、下級官吏ノ生活ト手當デアリマス、
政府ハ繼續勤務年限ニ對スル増給ヲ以
テ之ニ對處セントスルノデアリマス
ガ、果シテ斯カル膏藥貼リデ足ルモノ
デアルカ、又民間側ノ會社經理統制令
ニ依ル此ノ種ノ申請ニ對シテハ、原則

トシテ之ヲ承認シナイト云フノデア
ルガ、果シテ妥當ナリヤ、此ノ際一步ヲ
進メテ根本的ニ生活現狀ニ即シ、廣ク
低額收入者ノ生活安定策ヲ講ジナケレ
バナラヌコトガ主張サレタノデアリマス、
物價高ニ依ツテ増シタ豫算支出ノ財源ニ
付キマシテハ、公債二十年度發行豫定額ハ
四百六十億二千餘萬圓デアリマス、此ノ
公債ニ主力ヲ置クノ已ムベカラザルモノ
ガアルニモセヨ、租稅政策ハ是デ宜イカ、
今回ノ増稅十九億千八百餘萬圓ガ特ニ
中心トナツテ居ル分類所得稅ノ課稅率
ガ天井ニ近ヅイテ居ル現狀ニ於テ、又
新興所得階級課稅ノ方式ガ不完全ナル
點等ニ顧ミテ、稅制ノ根本改革ヲ要セ
ズヤト云フコトニ對シ、政府ハ其ノ要ナ
シトシ、討論者ハ其ノ要アルコトヲ強
調致シタノデアリマス、又富饒制度モ
今少シク大膽ニ實行ニ移スベシト言ハ
レタノデアリマス、專賣ニ付キマシテ
鹽ノ小賣價格ガ國民生活ノ基底ニ影
響スル意味ニ於テ質サレ、政府ガ考究
中ト答ヘタコトモ注目ヲ惹クコトト存
ジマス、要ハ戰時財政ノ要求スル經費
ニ對シテハ、一億國民ハ稅モ納メ貯蓄
モ調ヘルベク、自ラノ生活ヲ極度ニ制
限シテモ必ラズ之ヲ調達スベキヲ誓フ
ノデアリマス、敵「アメリカ」ノ財政上ノ

攻撃ノ如キハ少シモ驚カナイノデア
リマス、ソレダケニ政府モ國民ノ經濟上
ノ愛國心ニ對應致シマシテ、其ノ施策
ニ違算ナキヲ期セネバナラヌト云フノ
デアリマス
第二ハ外交問題デアリマス、作戰ト
並シテ外交ノ持ツ役割ノ重大ナコトハ
言フマデモアリマセヌ、國民ハ最高戰
爭指導會議ニ外務大臣ノ列席シテ居ル
寫眞ヲ見テ、必勝外交ノ實現セラレル
コトニ期待ヲ繫イデ居ルノデアリマス、
勿論現在中立國トシテ殘ルモノガ少ク、
同盟諸國トノ交通ニ制約サレテ居ルト
ハ申セ、打ツベキ方策、行フベキ施策
ハ多々アルノデアリマス、此ノ意味デ
委員會デハ特ニ「ソ」外交ト對支外交
トガ質疑ノ中心トナリマシタ、外交ノ機
微ニ互ル點ニ付キ秘密會モ開カレマシ
タガ、其ノ内容ハ申上ゲル自由ヲ持チ
マセヌ、固ヨリ委員側ガ問題ト致シマ
シタノハ、區々タル技術的操作デア
リマセヌ、積極ニシテ果敢ナル外交的
攻勢乃至ハ協力スベキト云フコトデア
リマス、日清、日露ノ兩大戰當時ヲ回
顧シテ當時ノ勇斷ヲ要望致シタノデア
リマス、積極外交ハツ、マシヤカニシ
テ揚ゲ足ヲ取ラレナイ外交ト云フ意味
デアリマス、敵「アメリカ」ハ正義ノ

旗ヲ振翳シテ、勇敢ニ大膽ニ、手落チ
ナク外交ヲ進メルト云フコトデアリマ
ス、ソコニハ熱烈ナル一億國民ガ背後
ニ立ツテ居リマス、茲ニ國民的外交ヲ
展開セヨト云フノデアリマス、大東亞
戰爭ハ支那ニ出テ支那ニ還ルト云フガ
日支關係ハ未ダニ支關口デアリ、外交
原則ノ範圍ニ低徊シテ居テハイカヌノ
デアリマス、國亡ビテ何ノ外交ツヤ、
宜シク指導的立場ニアル帝國ハ、既ニ
掲ゲタル原則ヲビシク具現シナケレ
バナラヌノデアリマス、更ニ正義ノ戰
ヒハ斷ジテ侵略戰爭ニアラズ、寸毫モ
我レニ侵略的意圖ヲ持ツテ居ラナイノ
デアリ、否ハ絃爲宇ノ世界觀ニマデ展
ゲラレル所ニ、世界政策ヲ基調トスル
積極外交、國民外交ノ面目ノ存スルコ
トガ強ク主張サレ、討論サレタノ
デアリマス、此ノ意味デ啓發宣傳ニ付
キマシテモ、常ニ作戰ニモ外交ニモ、
直結サルベク一段ノ積極的施策ト努力
トガ要望サレタノデアリマス
第三ハ軍需増産ノ問題デアリマス、
何故飛行機ガ足ラヌカ、又飛ベナイヤ
ウナ飛行機ハナイカ、是ハ思ヒヲ前線
ニ馳スル一億國民ノ齊シク案ズル所デ
アリマス、政府ハ、飛行機ノ製造率ハ
昭和十九年度以降大分上昇シ、敵「アメ

リカヨリモ歩ガ良クナツタガ、問題ハ其ノ保持昂揚ニアリ、又第一線飛行機ノ率ヲ多クシ、必中ノ飛行機ヲ造ルベク我ガ科學技術ノ陣營ニ確タル自信ガアルト述ベラレタノデアリマス、而シテ問題下ナル企業體制ニ付キマシテハ、軍需會社ノ強化ト統制會活用ノ二本建デ行クガ、空襲事情等ニ顧ミテ、企業集團制ヲ以テスベキニ付キマシテハ、當局ノ表現ハ聊カ曖昧デアリマス、即チ生産増強ノ爲ニハ畫一デナク、又現生産ヲ低下セシメザル線ニ立ツテ、本問題ヲ推進シテ行クト云フノデアリマス、尙ホ現在ノ統制法規ガ徒ラニ多ク發セラレ、極メテ複雑ニナツテ、生産ノ一大隘路トナツテ居ル點ハ、政府モ之ヲ反省シテ整理スル旨ヲ表明シ、統制會ニ付キテモ、弱體ナルモノ、少數ナルモノ、屋上屋ヲ架スル如キモノ、重複スルモノ等ニ付キ、之ヲ整理スルコトガ言明サレタノデアリマス、其ノ實現ハ早イ程宜イノデアアル、新タニ行ハントスル地方行政協議會ト軍司令部トノ連絡ニ付キマシテハ、此ノ制度ガ主トシテ防衛ノ面ニ好都合デアアルガ、緊急勞務ニ軍隊ノ出動スル場合アル如ク、生産増強ニモ資スルコトアルベク、資材、勞力、施設ノ全面ニ互ツテ吻合

セシメテ行クトノコトデアリマス、又兩者ノ區域ノ一致シナイ點ニ付キマシテモ之ヲ調整スルコトデアリマス、尙ホ資材ノ活用ト云フコトニ關シ、巨額ニ上ル未完成工事ノ打切ガ政府當初ノ聲明通りニ實行サレテ居ラナカッタコトハ洵ニ遺憾千萬デアリマスガ、既ニ案ヲ立テタトノコトデアリマスカラ、出來得ル限リ急速ニ實現サレネバナリマセズ、此ノ未完成工事ノ中ニ無用ノ資材ト、勞力ト、資金トガ潜在シテ居ル現状ニ顧ミ、討論者ハ之ヲ徹底的ニ斷行スベキコトヲ強調致シタノデアリマス、次ニ勤勞ノ面ニ付キマシテハ、企業體制ト平仄ヲ合セタル如キ國家性ヲ強化スベク、其ノ管理ニ付キマシテハ、内閣總理大臣自ラ過去三年ノ調べガ、委員ノ指摘シタ以上ニ惡イトノ率直ナル言明ニ徴シマシテモ、一日モ早ク是ガ改善ヲ斷行致サナケレバナリマセヌ、ソレニハ何トシテモ勤勞者ノ人間性ト魂トニ呼ビ掛ケテ、科學的ニ處理シナケレバナラヌト云フノガ委員側ノ主張デアリマス、人乏シキニアラス、之ヲ完全ニ適切ニ用ユル施策ガナイノデアリマス、特ニ學生ニ付キ、其ノ働クベキ所ト時トニ於テ一段ト留意シテ施

策スルヲ要スルモノガアリ、同時ニ向學ノ熱意ニ對應セシムベキコトハ教育百年ノ大計ニ副フ所以デアアルト信ジマス、上級進學ニ付キ政府ガ學徒ノ希望ヲ出來ルダケ満足セシメヨウトスルコトハ機宜ノ處置デアアルト信ジマス、次ニ輸送ニ付キマシテハ、造船ノコトガ順調ニ進ミ、船舶護衛モ自信ガアルトノコトデアリマスガ、問題ハ限リアル船舶ヲ以テスル運輸ノ如何ニアリマス、此ノ點ニ付キ委員側ヨリスル、配船ト運輸トヲ一元化シ、運管會ノ機構ヲ強化シテ、現在ノ所謂實務者制ヲ廢スベシトノ主張ニ對シマシテハ、概ネ其ノ線ニ沿ツテ改善スルトノ答辯ヲ得タノデアリマス、又陸海運從業者ノ待遇ノコトモ、物心兩面ニ改善ヲ加フルトノコトデアリマス、小運送及ビ港灣荷役ノ隘路打開ニ關シ、政府ハ地方鐵道及ビ軌道、貨物自動車事業及ビ荷役關係業ニ對シ、軍需充足會社令ヲ制定シテ、其ノ事業ノ國家性ヲ強化シ、責任體制ヲ確立スルト共ニ、資材、勞務ノ確保等ノ點ヲ強化シ、以テ輸送力増強ニ資スル方針デアアル旨言明サレタノデアリマス、尙ホ軍需増產ニ關聯スル科學技術ニ付キマシテ、日本科學院營ニハ十分ナ餘力ガアリ、第一回ノ動員ヲシ

タニ過ギナイト云フコトハ洵ニ慶賀ニ堪ヘナイノデアリマス、唯技術院ハ單ナル技術者ノ斡旋機關タルニ止メズ、技術力ヲ結集強化シ、以テ之ヲ戰力化スル線ニ向ツテ當局ノ一段ノ飛躍的勇斷ガ望マシイノデアリマス

第四ハ國民生活ノ問題、就中其ノ中心ヲナス食糧確保ノ問題デアリマス、昭和二十年度ニ於ケル食糧ノ需給事情等ニ顧ミテ、内地ニ重點ヲ置クコト、米、麥ト並ンデ甘藷、馬鈴薯ノ増産スベキコトガ強調サレ、政府モ食糧ノ生産及ビ配給ニ五億五千八百萬圓ノ經費ヲ以テスル外、甘藷二十七億圓、馬鈴薯八億圓増産ノ目標ニ向ツテ七千五百餘萬圓ノ經費ヲ以テ之ヲ執行スルノ決意ヲ示サレタコトハ力強イ限リデアリマス、而シテ主食糧ニ合三勺ノ標準量ヲ堅持スベキ旨ヲ聲明サレタコトモ、國民ノ戰時的安心感ヲ高メルコトデアリマス、唯價格政策ノ改善スベキコトハ前ニモ述べタ通りデアリマス、又「トソネル」的存在デアアル統制會社ノ整理ニ付キマシテ、當局ガ日和見ニ墮シテ居ルト思ハレル點ハ改メラレタイトノ委員側ノ強イ主張デアリマス、尙ホ系統農業團體ノ整備強化ヲ圖リマスト共ニ、指導ノ一元的統制ヲナシ、生産、

供出ノ眞ノ責任團體ヲラシメネバナラヌコト、農山漁村ニ於ケル其ノ生産資材並ニ生活物資ノ配給ヲ、農林水業團體ニ一元的ニ行ハシメルコトニ付キマシテハ、篤ト委員會ノ主張ニ顧ミテ其ノ實現ヲ期待シテ已ミマセヌ、又近時農民ノ生活ガ次第ニ荒ミ行ク實情ハ憂慮ニ堪ヘナイノデアリマス、ドウカ拔本衆源ノ策ヲ講ジテ戴キタイモノト思ヒマス、尙ホ國民生活ニモ軍需増産等ニモ關聯スル防衛問題ニ付キマシテハ、政府ハ二億九千四百餘萬圓ノ豫算ト、二十億圓ノ豫算外契約トヲ以テ對處シテ居ルノデアリマスルガ、甚ダ不十分デアリ、此ノ際一段ノ施策ヲ強化スベキコトガ明カニサレマシタ、即チ政府ノ現ニ行ハントスル所ハ重要都市ニ關スル防空ノミデアリマシテ、他ノ地方ニ及バナイ、計畫ガ不完全ナ體ミガ少クナイノデアリマス、工場初メ一般疎開ニ付キマシテモ同様ニ計畫性ガナク、思ヒ付キノ範圍ヲ出デナイノデアリマス、疎開ヲ受ケル方面ニ致シマシテモ亦然リデアツテ、特ニ農村ト工場疎開トノ關係ヲ深ク考慮シテ居ナイノ遺憾千萬ト言ハネバナラヌノデアリマス

第五ハ國內體制ニ關スル諸問題デア

リマス、國民ノ間ニ戰意ノ昂メラレツ、アル反面ニ於テ、道義廢類ノ甚ダ寒心ニ堪ヘナイ様相モ見受ケラレルノデアリマス、而モ閣行爲ノ公然行ハル、背後ニ、政府ノ施策宜シキヲ得ザルニ依ルモノモ見出サレルノデアリマス、議會ノ開カル、都度手續ヲ指摘サレル官紀ガ依然トシテ弛緩シ、其ノ大イニ振肅スベキモノガ所在ニアルトハ概歎ノ至リデアリマス、是レ取リモ直サズ思想對策ノ一日モ忽セニスベカラザル所以デアリマス、又決戰策ニ當リマシテハ、戰時中文官任用令ヲ撤廢シテ、廣ク人材ヲ天下ニ求ムベキコトガ強調サレマシタ、又政府中央部ノ意圖スルモノガ行政ノ末端ニ行渡ラナイ、斯クアルベキ管下サレテ居ルモノガ末端ニ行ハレテ居ナイ、島田農商大臣ノ所謂管行政ヲ行政ノ全面ニ互ツテ一掃スベキコトハ、討論者ニ於テ叱咤サレタ所デアリマス、又動モスレバ國民ノ昂メラレル戰意ヲ抑ヘルガ如キ言論取締法規ヲ改ムベキコトニ關シテハ、政府ガ他ノ諸法各ト共ニ之ヲ改廢スベク委員會ヲ設クルコトハ諒トスルノデアリマスガ、ソレモ急速ニ實現ヲ見ルヤウニシナケレバナリマセヌ

ノ諸問題ニ互ツテ會議ノ大要ヲ申述ベシメシタガ、委員會ニ於ケル議論ガ熱烈ニ會議録ノ訂正ヲ要スルコトノ頻繁デアツタコトハ從來例ヲ見ナイ程デアリマシタ、又政府ガ初メノ中考慮中トカ研究中トカ答ヘラレタモノガ、次第ニ眞摯ナル態度ヲ以テ答辯サレルコトニナツタノモ本委員會ノ特色デアツタト存ジマス、唯政府ノ苛烈ナ決戰段階ニ對處スベキ態度ノ緩漫ニ過グルコトニ對シテ、再斷ヲ期待致シマシタコトハ各委員ノ口カラ繰返サレタ所デアリマス、議會ノ再開ヲ前ニシテ發表サレタ五大施策ハ如何ニモ内容ガ乏シイ、半年餘リモ行方不明ニナツタ物價問題ノ爲ニ、形バカリノ審議會ヲ作ルト云フガ、此ノ先ノ實行ヲ危ブムモノガ少クアリマセヌ、軍需増産ノ施策モ手ヲ着ケルガ如クニシテ、而モ生産ガ低下シテハト用心シテ居ルノモ、斷行ヲ濫ル逃ゲ言葉デアナイカトモ聽カレタノデアリマス、大和一致ノ妥協ヤ問題解決ヲ見送ルト同意義デアツテハナリセヌ(拍手)委員ガ政府ニ鞭撻ヲ辭送リ、政府ノ施策ノ足ラザルヲ補ハウトスルノハ、議會自ラ責任ヲ分ツテ政府ニ協力セントスルノデアリマス、政府ハ思ヒ切ツテ決戰策ヲ斷行スルガ宜イ、政府ハ最高戰爭指導會議ニ責任者ハナイト言

ヒマスルガ、統帥部トノ吻合ニ付キマシテハ確乎タル自信ヲ以テ臨マレタイ、宜シク過去ノ大戦役ニ政治面カラ立ツテ、眞向ニ大役ヲ果シタ日本ノ大政治家ガ如何ナル態度ニ出デタカ、其ノ足跡ヲ見ルガ宜イ、茲ニ戰爭ト云フノハ作戰ノコトデアリマセヌ、高度ノ政治性ヲ包含表現サレタモノデアリマス、而モ政府ハ苟クモ一度樹テタ方針ヲ行フニ當ツテハ、行政上ノ措置ニ遺算ナキヲ期シマスルト共ニ、飽クマデ一億國民ヲ信ジ、一億國民ト共ニ政治スルノ心ヲ以テシナケレバナラスノデアリマス、是レ必勝國內政治體制ヲ確立スルノ急務ナル所以デアリマス、此ノ一億國民ヲ基盤トスル必勝態勢ガ確立スレバ、軍需ノ増産モ、食糧ノ確保モ出來ルノデアリマス、是ガ確立シテ居ナイカラ決戰策ニ生命ガ吹込マレナイノデアリマス、此ノ意味ニ於テ國民ハ今日手一杯ノ戦力ヲ出シタクトモ出シ切ツテ居ナイノデアリマス、否、此ノ國民ノ政治力ヲ出スコトナクシテハ勝ツコトガ出來ナイノデアリマス、諸々ノ國家施策ノ裏付ケトナル物動計畫ノ如キモ、委員會ニ於ケル政府ノ説明ニ頗ル嫌ラヌ點ガアツタコトハ姑ク措クトシテ政府ノ意中ニ抱ク此ノ種ノ經濟上ノ數

字モ、此ノ國民ノ政治力ガ完全ニ發揮サレルコトニ依ツテ、百ヲ得ントスル數字ハ二百ニモ三百ニモナルノデアリ、一億國民ノ炎々ト内ニ燃ユル戰意ハ彌ガ上ニ昂メラレ、乏シキ物力モ増シ得ルノデアリマス、此ノ意味ヲ新政治體制問題ガ強調サレテ居ルコトハ御承知ノ通りノコトデアリマス、體テ急速ニ進シキ新政治體制ノ結集スルコトガ期待サレ、政府ノ之ニ關聯スル大政翼贊會等ニ對スル措置ト、之ニ伴フ豫算ノ實施上ノ措置ガ執ラレル管デアリマス

斯クテ豫算委員會ハ討論者山本桑吉君ノ熱辯ヲ以テ議ヲ閉ジ、茲ニ豫算ノ各案ヲ承認シテ本會議ニ臨ムコトニナツタノデアリマス、此ノ段御報告致シマス(拍手)

○議長(岡田忠彦君) 是ヨリ討論ニ入りマス——西方利馬君

[西方利馬君登壇]

○西方利馬君 私ハ翼贊政治會ヲ代表致シマシテ、委員長報告ノ通り本豫算案ニ對シ贊成ノ趣旨ヲ極メテ簡單ニ申述ベタイト思フノデアリマス、只今委員長ノ御報告ニナリマシタ通り昭和二十年度豫算案ハ、臨時軍事費ヲ加ヘマシテ總計一千八百八億餘圓デアリマス、

併シ今日皇國興廢ノ關頭ニ立チ、我々國民ハ戰捷ノ爲ニ必要ナル豫算ハ如何ニ龐大デアリマシテモ、政府ノ要求ニ應ズル覺悟ト用意トヲ持ツテ居ルノデアリマス(拍手)此ノ點ハ帝國ニ取リ絶大ナル強味ト申サネバナリマセヌ、政府ハ此ノ國民ノ赤誠ニ信賴シ強力果敢ニ決戰策ヲ斷行ニ邁進セラレネバナラヌト思フノデアリマス、本豫算案ニ織込マレマシタ施策ハ何レモ決戰下喫緊ニシテ、而モ缺クベカラザル所ノ要務デアリマス、是ガ實施ニハ分秒ノ躊躇モ許サナイノデアリマス、政府ハ右顧左眄スルコトナク斷々乎トシテ施策ヲ實行サレンコトヲ切ニ要望シテ已ミマセヌ、同時ニ此ノ豫算案ガ此ノ計畫通り、而モ時ヲ移サズ實踐ヲ舉グル爲ニハ、國民ノ白熱シタ戰意ト其ノ精魂ヲ打込シテ協力體制ニ依ルコトガ最モ肝要ナリト確信致スノデアリマス、總理大臣初メ内閣諸公ハ此ノ點ニ果シテ缺クル所ナシトセラレルヤ、茲ニ深キ思ヒヲ致スベキデアルト存ジマス、全國民ノ熱烈ニシテ心カラナル協力ヲ得ル爲ニハ、民意ノ暢達即チ國民ノ正シキ意思ヲ遺憾ナク實際政治面ニ具現スルコトニ依ツテ初メテ出來ルノデアリマス(拍手)是ナクシテ國民ノ熱烈ナル協

力ヲ求ムルコトハ斷ジテ出來マセズ、然ルニ刻下ノ現狀ハ民意ヲ實際政治ノ上ニ具現スベキ所謂民意暢達ノ機構組織ノ上ニ大イニ缺クル所アルハ甚ダ遺憾トスルノデアリマス(拍手)今日翼賛政治會、大政翼賛會アリト雖モ、是等ヲ以テシテハ此ノ重大ナル大使命ヲ達スルコトノ出來ナイコトハ最早明白デアリマス(拍手)故ニ我等ハ此ノ際從來ノ行掛リヲ一擲シ、新タル同志のニシテ而モ學國的ナル政治團體ヲ結成セントスル固キ決意ヲ致シタノデアリマス、我々ガ茲ニ一億國民ノ政治力ヲ集體ヲ樹立セントスルノハ、舊政黨ノ如キモノヲ復活セントスルモノニアラザルコトハ申スマデモアリマセズ、唯一意一億國民ノ翼賛政治力ヲ決勝ノ一點ニ凝結シ、此ノ強力ナル政治力ニ依リ眞ニ大政翼賛ノ本分ヲ全フセントスル愛國ノ赤誠ニ出ヅルモノデアリマス(拍手)政府ハ曩ニ本議場ニ於テ金光氏ノ此ノ點ニ關スル質問ニ對シ同感ノ意ヲ表セラレタノデアリマスルガ、政府ガ此ノ新團體結成ニ對シ正シキ理解ヲ持タレンコトヲ強ク切望致シマシテ、私ハ本豫算案ニ贊成セントスルモノデアリマス(拍手)

但シ總豫算案中皇室費ハ協贊ヲ要セザル費目デアリマスカラ之ヲ除キマス、十案ヲ一括シテ採決致シマス、委員長ノ報告ハ何レモ可決デアリマス、卜案ヲ委員長ノ報告ノ通り決スルニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔總員起立〕

○議長(岡田忠彦君) 起立總員

〔拍手起立〕

○議長(岡田忠彦君) 仍テ十案トモ委員長報告ノ通り全會一致可決確定致シマシタ

〔拍手起立〕

○小泉純也君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出軍需金融等特別措置法案、臨時資金調整法中改正法律案、戰時金融庫法中改正法律案、生命保險中央會法案、損害保險中央會法案及ビ臺灣銀行法中改正法律案ノ六案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ

局致シマシタ、是ヨリ採決ニ入リマス、

軍需金融等特別措置法案、臨時資金

調整法中改正法律案、戰時金融庫法中改正法律案、生命保險中央會法案、損害保險中央會法案、臺灣銀行法中改正法律案、右六案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長久山知之君

報告書

軍需金融等特別措置法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

戰時金融庫法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

生命保險中央會法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

損害保險中央會法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

臺灣銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一軍需金融等特別措置法案(政府提出)

出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

軍需金融等特別措置法案、臨時資金

報告書
一臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一戰時金融庫法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一生命保險中央會法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一損害保險中央會法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

軍需金融等特別措置法案、臨時資金

報告書
一臺灣銀行法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

○久山知之君 只今議題トナリマシタ

軍需金融等特別措置法案外五件ニ對シマシテ、委員會ノ經過及ニ結果ヲ御報告申上げマス

委員會ハ去ル二十三日、委員長、理事ノ互選ニ始マリマシテ、以來本日本日六回ノ會議ヲ開イタ譯デアリマス、サウシテ主管官タル大藏省及ニ軍需省、内務省、是等ノ政府委員ノ出席ヲ求メマシテ、各委員ヨリ交、熱烈眞摯ナル質疑應答ガ繰返サレタノデアリマス、私ハ其ノ一々ヲ御披露申上げタイノデアリマスルガ、本夕ハ時間ノ關係上一切ヲ省略致シマシテ、速記録ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマス(拍手)

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一臺灣銀行法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一臺灣銀行法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二十年一月三十日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

軍需金融等特別措置法案、臨時資金

尙ホ委員會ノ進行中、最後ニ併託サ

レマシタ臺灣銀行法中改正法律案、此ノ問題ニ付キマシテハ、特ニ内務省並ニ臺灣總督府ノ政府委員ノ出席ヲ求メマシテ、祕密會ノ下ニ、頻々タル空襲下ニ於ケル臺灣ノ實情ニ對シテ聽取致シタノデアリマス、其ノ内容ハ祕密會ナルガ故ニ、茲ニ御披露申上ゲルコトヲ差控ヘタイト存ジマス

斯クシテ一切ノ質疑ハ終了致シマシタ、本日討論ニ入りマシテ、池本甚四郎君カラ翼贊政治會ヲ代表シテ贊成ノ御意見ヲ開陳セラレマシテ、サウシテ全員一致原案ヲ承認スベシトノ結論ニ到達致シタ譯デアリマス、以上簡單デアリマスルガ、委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(岡田忠彦君) 六案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ六案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(岡田忠彦君) 直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレソトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ

御異議アリマセヌカ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

軍需金融等特別措置法案
第二讀會(確定議)
臨時資金調整法中改正法律案
第二讀會(確定議)

戰時金融庫法中改正法律案
第二讀會(確定議)
生命保險中央會法案
第二讀會(確定議)

損害保險中央會法案
第二讀會(確定議)
臺灣銀行法中改正法律案
第二讀會(確定議)

○議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、六案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後八時十三分散會

衆議院議事速記第五號七二頁四段二十一行ノ次ニ政府ノ修正左記ヲ追加ス

昭和二十年年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律案中別紙ノ通議院法第三十條ニ依リ修正ス

昭和二十年一月二十五日
内閣總理大臣 小磯 國昭
大藏大臣 石渡莊太郎

第一條中「七十六億六百七十萬圓」ヲ「八十八億五千五百六十萬圓」ニ修正ス

昭和二十年一月二十六日
内閣總理大臣 小磯 國昭
大藏大臣 石渡莊太郎

第一條中「八十八億五千五百六十萬圓」ヲ「九十一億九千四百九十萬圓」ニ修正ス

